平成 29年度　西東京市立　　谷戸第二小学校　学校評価計画表

学校教育目標

〇学ぶ喜び　　〇集う喜び　　〇伸びる喜び　　をつかむ子

目指す学校像（ビジョン）

【目指す学校像】　「子供一人一人が学ぶ喜び、伸びる喜び、集う喜びをつかむ学校」を、子供の学びのエンジンを動かして実現していく。
【目指す児童・生徒像】　様々なことに主体的能動的にかかわって、知識・技能のみならず、体力、思考・表現力、学ぶ力を高め、これからの自分の学習や生活に生かしていこうとする児童。
【目指す教師像】　児童一人一人のよさを見付け、認め、称揚し、そのよさをさらに伸ばし広げる方策を練って、粘り強く指導・支援していく教師。

前年度までの学校経営上の成果と課題

全学級で、児童は落ち着いた態度で課題解決に真剣に取り組む授業を実施することができている。思考力・表現力については、近年、全国学力調査・学習状況調査で東京都の水準を上回る結果をあげている。これは、学校教育目標「子供一人一人が学ぶ喜び、伸びる喜び、集う喜びをつかむ学校」を、子供の学びのエンジンを動かして実現する目標設定と、この目標達成のため、学校で共通に実行しているO「めあて」と「まとめ」「ふりかえり」のある授業、O思考ツールやミニホワイトボード、付箋紙を活用しての「見える化」「操作化」のある授業、OICT機器を活用しての「見える・分かる授業」の実現、などの手立てを全校で共通に実行してきた成果である。また、児童の学びに向かう態度育成に向けては、地域の学習財を活かした単元構成による「生活科」と「総合的学習の時間」の実施、全校で取り組む「業間の体育的活動」などで成果をあげている。
今後の課題としては、教職員による学校教育目標の理解をさらに深め、主な手立てとその指導法を質高く習得して継続実施することである。また、保護者・地域の方々の学校理解を深め、今後も協働していただくことである。

	具体的方策	学校自己評価 努力目標	学校自己評価 成果目標	学校の取り組み　改善策	学校関係者評価	学校関係者評価記入欄
豊かな心の育成	ア：児童のよさを見付け・認め、必要に応じて問い返し、挑戦を励ます言葉かけを毎時間励行する。	4 95.9%	3 児童 88%	・前期と比較して6ポイント下がっているため，今後もさらに児童を褒めていく姿勢を大切にしていく。よいモデルを取り上げて声かけを広めたり，さらに挑戦したいという気持ちになるよう，言葉を考えて声かけをしたりしていく。また，個々の児童の状態を把握し，ピンポイントで児童に伝わるように褒めていくようにする。	A	・大人に褒められることが，がんばろうという意欲につながっていると思う。励ましの言葉は大切。 ・多くの児童が励ましの言葉をかけられていると感じていることがすばらしい。 ・適切な評価である。 ・努力を重ね，成果への課程を体験させることは大切なこと。 ・児童の評価が高いが，そう感じない児童もいるので今後も努力が必要。
	イ：道徳の授業を計画的に進め、「考える道徳」「議論や対話のある道徳」を実現して、毎週の授業を充実させる。	4 100%	3 児童 89%	・数値が上昇しており，授業に変化が表れていると判断できる。グループで話し合いをさせるなど，教師の取り組みも変化してきており，「考える道徳」など新しいアプローチに挑戦してきたことがうかがえる。引き続き論議や対話のある道徳を目指して授業改善を行っていく。	A	・教員の評価がBに偏っているのは，指導が難しいのではと感じる。 ・適切な評価である。 ・アクティブラーニングなどの取り組みにもつながる大切な内容だと思う。 ・理解できるように考えさせる指導は，とても大変だと思うが大切なこと。
確かな学力の向上	ウ：学習の見通しや達成感をもてるように、授業の導入部で学習の「ねらい」を共有し、授業の終わりには「まとめ」と「ふりかえり」のある授業を積み重ねる。	4 100%	4 児童 94%	・数値から，教員の実践が積み重ねられてきていることがわかる。今後も，「めあて」の答えが「まとめ」などを伝え，児童に「振り返り」との違いを理解させたり，子供の言葉を大切にしてまとめをしたりしていく。	A	・自分が書いた振り返りにコメントがあると励みになると思われる。これからも是非継続をしてほしい。　・適切な評価である。 ・目標の達成を確認するよい機会だと思う。 ・このような繰り返しの中で児童は育って大人になっていく。
	エ：思考・表現力を高めるため、国語科との関連的な指導と、思考ツール・ミニホワイトボード・付箋紙などを活用した「情報の見える化」「操作化」のある授業を全教科等で積み重ねる。	4 100%	3 児童 89%	・教師の確かな実践が増加したことがわかる。今後も，付箋紙を活用したり，表現活動の中でも実物を直接体験させたりしながら「見える化」や「操作化」のある授業を組み立てていき，授業改善を図っていく。	A	・保護者の意見を反映させてもよいのでは。そうすれば評価4に上がるのではないか。これだけの数値が出ているのに「3」となるのはきびしい。 ・iPadなどのITツールなどの活用が期待される。 ・場の設定が大切。考えを出し合うと，自分の考えとの違いがわかってくる。
	オ：「見える・わかる授業」の具体化のため、書画カメラと大型テレビ、PCなどのICT機器の活用のある授業を毎週実施する。	4 100%	4 児童 91%	・教師の確かな実践の上昇に伴い，児童の実感も上昇している。今後も，児童のノートを画面に映して全体に広めたり，体育の鉄棒演技を映し出すことで，挑戦する気持ちを高めたりするなど，ICT機器の活用を引き続き行い，学習改善を行っていく。	A	・保護者の意見を反映させてもよいのでは。そうすれば評価4に上がると思う。これだけの数値が出ているのに「3」となるのはきびしい。 ・機器の使用に慣れない児童も，継続活用で慣れて楽しくなると思う。
	カ：算数科の習熟度別学習の実施と、放課後の補習指導、朝の東京ベーシックドリルに取り組む時間の確保により、算数科の基礎力の習得を確かにする。	3 94.1%	3 保護者 95% 児童80%	・昨年度と比較し高評価を維持したが，児童の満足度がやや低い傾向。今後も，引き続き計画的にベーシックドリルに取り組ませると同時に，児童の学力を正確に把握し，その変容を見ながら対応した指導を充実させる。	A	・学力低下にならぬよう，家庭と学校が協力して行っていく必要があると思う。 ・好きでない子の指導をどうするか。焦らずに対応してほしい。
	キ：「思考・表現力などの資質・能力」を高めるため、「生活科と総合的な学習の時間」の校内研究に取り組み、探究と協働のある学習を、国語科との関連をもたせて充実させる。	4 95.0%	4 保護者 94.3%	・生活科や総合的な学習の時間を中心に，他教科でも思考力や表現力を育てるよう気を配ってきた結果，保護者の数値も高く，児童にそれらの力が育ってきていると考えられる。今後も引き続き，他教科との関連を意識し充実した指導を継続する。	A	・適切な評価である。 ・体験・体感できる授業が増えることはよいことだと思う。 ・新聞作りなどを通して，考えたり想像したり話し合ったりするうちに，思考力や表現力が身につき，深みのある人間になっていくと思う。 ・難しい取り組みに感じるが，高評価はすばらしい。
健やかな体の育成	ク：体力向上のため、長縄週間や短縄週間等の体育的活動を、毎学期、計画的に実施する。	4 100%	4 保護者 97.5%	・肯定的な評価を得ており，体力向上と挑戦する心が児童にしっかり根付いていると考えられる。反面，楽しく運動できないと回答する児童もいることから，当該児童に対する配慮も丁寧に行いながら，今後も活動を継続していく。	A	・長縄など，体力向上は大切な内容だと思う。目標に向かう過程を大切に。 ・適切な評価である。　・運動が苦手で，何をやっても楽しくなかった経験がある。なので，そのような児童にはどのように対応していけばよいのか，考えてしまう。　・苦手な子は回数を止めるなど，嫌な思いがあると思う。いじめにつながらぬよう，そういう子も盛り上げてほしい。
保護者・地域との連携	ケ：保護者や地域の方々にボランティアやゲストティーチャーを依頼し、保護者・地域の方々と協働する教育活動を実施する。	3 79.9%	4 保護者 95.4%	・高い評価を維持することができており，地域や保護者と連携した教育活動を行っていると判断できる。今後も地域や保護者と力を合わせた授業づくりに邁進していく。	A	・会議に出席して学年の報告を聞くと，地域と協力して指導していることがわかるので，学校の評価は4にしてもよいと思う。　・ボランティアの意識が低い人が今後増える心配がある。いかに興味をもって活動できるかが課題だと思う。　・とても活発で成果をあげていると思うので，延べ人数にとらわれることなく進めてほしい。　・保護者・地域を巻き込む教育が子供と大人の成長につながる。